

＜白金標準先物、ECB 理事会に向けた下値模索＞



(出所：オアシス)

先週に ADP 雇用統計の大幅改善を受けた金標準先物の下落は、4200 円で戻りが抑えられた白金標準先物の失望売りを誘い、雇用統計の発表を控えた時間帯に 4050 円まで下値を試す値動きを見せている。しかし雇用統計の結果は想定外の事前予想を下回る結果となった事から、巻き戻しの動きを強めて 4120 円まで戻りを見せている。特に NY 白金は先週に 1150 ドル割れで下げ渋る値動きを示しており、白金標準先物で換算すると 4076 円に相当するため、4100 円割れは買い戻しを強める可能性が高いと思われる。

ただロシア・ノリリスクの 5 月に操業開始したオクチャブリスキー鉱山に続き、タイミルスキー鉱山も鉱石の採掘を再開している。また今週は 10 日に ECB 理事会を控え来週の FOMC との金融政策の違いが浮き彫りになると為替市場のユーロ売り：ドル買いの動きも予想され目先は下値模索の値動きに注意したい。

(2021 年 6 月 6 日記載)

＜テクニカル＞

MACD では、4447 円の高値を試した後は **MACD** が**シグナル**を下回り、**MACD** と**シグナル**は下げている。また **MACD** と**シグナル**の乖離を示すヒストグラムはマイナスサイド(**弱気**)で維持している。しかしヒストグラムの乖離が縮小を示すなど、4447 円からの下落が終わる可能性も示しているため、**MACD** が**シグナル**を上回る**強気のサイン**が発生する確率は高くなっており、クロス発生のタイミングで新規買いを行うのが妥当と思える。